



鈴木 みどり 議員
やとみ志政会

問 男女共同参画の取り組みは

答 女性の活躍促進の取組を宣言

○第2次弥富市男女共同参画プランについて以下を問う。

問 調査はどのように行われたか。

答 (市民生活部長) 18～84歳の在住者2000人と、中学2年生406人に対して行った。

問 男女間の地位が10年前より後退しているのはなぜか。

答 固定的な性別割合分担意識が強く残っている。

問 男性の家庭参画の取り組みは。

答 「パパママ教室」や子育て支援の講座、講習会の実施。

問 職員で、男性の育児休業は。介護休業の取得は。

答 (総務部長) 育児休業は令和3年度4名、令和4年度2名。

問 介護休業は、令和4年度1名。

問 育児休業、介護休業の取りやすい環境づくりは。

答 個別に制度説明や意向確認などを行う。

問 教育の場で、子ども達が学ぶ機会はあるか。

答 (教育部長) 学校では、人権の尊重、男女の平等や男女相互の理解と協力の重要性について学んでいる。

問 審議会など女性登用の推進は。

答 (市民生活部長) 女性委員比率40～60%を目標と定めている。

問 県での研修等に女性職員参加は。

答 (総務部長) 「女性職員キャリアアップ研修」などへの参加を促している。

問 市長総括

答 (市長) 令和4年7月、女性の活躍促進に向けた取組を宣言。



問 子どもの居場所と多世代交流は

答 「地域共生社会」の実現

問 この活動を増やしていくのか。

答 各地域に、特色のある子どもの居場所が開設されるような環境づくりについて、市社会福祉協議会と連絡を取り、進めていく。

問 多世代交流・共生まちづくりの施策は。

答 子ども食堂の良さや強みを生かすという点から、どのような支援が望ましいのか、市社会福祉協議会と一緒に考える。

問 子どもの居場所・子ども食堂は、多世代交流施設に繋がると考えるが。

答 (市長) 活動が地域に根付くことを望んでおり、団体が立ち上がるように支援していきたい。



▲子どもの居場所(学習支援)の様子